

職業アレルギーによる過敏性肺炎

東京医科歯科大学呼吸器内科

稲瀬直彦

過敏性肺炎 (hypersensitivity pneumonitis) は外因性抗原を繰り返し吸入後に細気管支や間質に病変をきたすアレルギー性疾患であり、欧州では外因性アレルギー性胞隔炎 (extrinsic allergic alveolitis) とも呼称される。原因抗原を職業環境由来と住居環境由来に大別することができるが、職業環境に起因する過敏性肺炎には農夫肺、塗装工肺、きのこ栽培者肺、温室栽培者肺などがある。農夫肺は 1932 年に Campbell により記載されたが、1963 年には Pepys により好熱性放線菌に対する抗体が示され、アレルギー性疾患と認識されるようになった。原因は *Thermoactinomyces vulgaris* や *Saccharopolyspora rectivirgula* などの好熱性放線菌であり、酪農や畜産など牧草を取り扱う職業で発症する。発症時期は冬から春が多く、低気温・高湿度の牧草保存環境を背景とする。臨床像として、気管支肺胞洗浄液 (BALF) の CD4/CD8 高値と肺組織での大型の類上皮細胞肉芽腫が特徴的である。塗装工肺はイソシアネートによる過敏性肺炎であり、自動車塗装、室内装飾、電線・家具のコーティング、プラスチック加工などの職業で発症する。イソシアネートには toluene diisocyanate (TDI)、methylenediphenyl diisocyanate (MDI)、hexamethylene diisocyanate (HDI) があり、生体内ではハプテン担体系を形成し抗原性を示す。塗装工肺では重症例も散見され、胸部CTでは小葉中心性粒状影とすりガラス陰影に加えて濃い浸潤影を認める。BALF では、農夫肺と異なり CD4/CD8 が低下する傾向がある。きのこ栽培者肺は 1959 年に Bringham により記載され、以後、好熱性放線菌が主因と考えられていたが、1981 年に中澤によりシイタケ胞子が原因抗原となることが示された。きのこ栽培者肺として、シイタケ、ナメコ、シメジ、エノキ、エリンギによる過敏性肺炎が報告されている。その他の職業性過敏性肺炎として、ラン栽培、バラ栽培、みかん農家、茶工場、木屑、コルク、歯科技工、金属作業液、ボタン製造、漆喰作業、泥炭製造、動物用飼料に関連した発症が報告されている。また、住居関連とされる夏型過敏性肺炎

や鳥関連過敏性肺炎もホテル勤務や公園清掃など職場で抗原曝露を受けることがある。治療として急性期にはステロイド薬が使用され、職場に復帰する際にはマスク着用が試みられるが、抗原曝露を十分に回避できない場合には職場の配置転換や転職が考慮される。職業性過敏性肺炎は急性過敏性肺炎として発症するケースが多いが、抗原曝露が年余にわたる場合には慢性過敏性肺炎の病型をとることがあり注意が必要である。